

# ごみ行政が、おかしい! 利権がらみで 動いているのでは?

## プラスチックごみを分別すれば 年間1万トンの減量ができます

平野市議が「大分市のようにプラスチック容器包装類を分別収集したら、燃やすゴミはどれほど減量できるか」と質問。

環境課長は「(燃やすゴミ 44,000トンのうち)家庭ゴミで 4,700トン、事業系ゴミで 5,200トン、計約 1万トンの減量が可能」と答弁しました。

6月14日に一般質問をした平野市議は、「別府市のごみ行政には暴力団につけこまれるスキがある」と、これまでのゴミ行政の問題点について指摘しました。

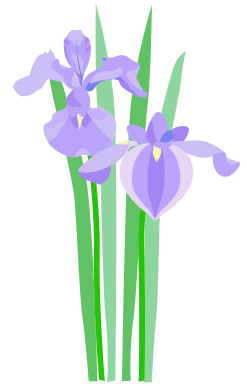
## 別府市は「燃やさず分別する」、広域圏は「もやす」 ・・・ 同じ浜田博氏が責任者なのに、なぜ 180 度ちがう方針? ・・・

別府市は平成 14 年策定の「温室効果ガス削減計画」のなかで、ゴミの焼却による CO2 排出量が多い原因は「ゴミのなかにプラスチック類が多いこと」と指摘し、平成 19 年策定の第 5 期分別計画で「平成 22 年度からプラスチック容器包装類の分別収集を行う」と発表しました。

ところが同じ平成 19 年策定の広域圏事務組合（管理者・浜田博）の計画では「プラスチックは燃やす」という方針を決めたのです。

そのため別府市は「分別収集」の方針を撤回しました。同じ時期に、同じ責任者が 180 度ちがう方針を出す・・・いま別府市では、説明のつかないことが起こっています。

## 平野市議がつよく主張



# 事業系ごみに混入している 産業廃棄物の分別を徹底すれば 燃やすゴミは大幅に減量できる

## 大分市は事業系ゴミを大幅に減量

大分市は平成 19 年から「事業系ゴミに混入している産業廃棄物」「リサイクル可能な紙類」などの焼却場への持ち込みを禁止しました。

その結果、2年間で 34%ものゴミを減量しました。

### 《大分市の事業系ゴミ》

◇平成 18 年度・・・65, 366 トン

◇平成 20 年度・・・43, 082 トン

別府市の事業系ゴミは、21,000トン(H24)ですから、大分市と同じことをすれば 7~8000トンの減量が可能です。プラスチックの分別とあわせて 2 万トンの減量すれば、大きな焼却炉は不要になります。

また平野市議は、「大分市のように事業系ゴミの分別を徹底すれば、さらに大幅なゴミ減量ができる」「そうすれば今建設中のような大きな焼却炉は不要だ」「広域圏への市の負担金も大幅に節減できると強く主張しました。」

## 新焼却炉 入札の怪

いま、1日 235 トンのゴミを焼却できる新しい焼却炉が建設中です。この入札でも不思議なことがありました。別府市の副市長が責任者の業者選定委員会は、12 億円も高い日立造船を選んだのです。

平野市議はこうした一連の事実を指摘し、「別府市のゴミ行政は合理的な判断で動いているとは思えない」「利権がらみの体質が、今回、暴力団を引きこむ結果になったのではないか」と、厳しく批判しました。

### 《入札結果》【日立造船】 【エバラ】

建設費	98 億 7000 万円	114 億 6894 万円
維持管理費	88 億 5390 万円	60 億 0272 万円
セメント処理	21 億 3959 万円	21 億 3959 万円
(合計)	208 億 6349 万円	196 億 1125 万円

※建設 5 年、維持管理 15 年の入札結果ですが、実際は、30 年以上委託しますから、約 41 億円高い買い物になります。